

I 自己評価

1 学校教育目標	1 生徒一人ひとりの良さや可能性を見つけ、伸ばす。 2 社会で求められる資質・品格を身に付けさせる。 3 地域社会に貢献する人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	家庭地域連携活動・広報活動	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	保護者を対象とした結果では家庭との連携に関し肯定的評価70%以上は一項目のみであった。(昨年四項目)減らした項目はホームページや学年通信での情報発信に関するものであった。また、わからないの比率も増加している。 地域との連携に関しては生徒、保護者共に肯定的評価が60%代止まりである。この項目に関しても保護者はわからないの比率が高い。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇家庭や地域との連携を大切にしたい教育活動を推進します。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	(1)コミュニティ・スクールとしての特徴を生かし、家庭や地域との連携をいっそう密にし、生徒の成長に向けての協働を追求する。 (2)広報活動の充実をはかるとともに学校を見てもらう機会を積極的に設けることにより、いっそう「開かれた学校づくり」を進める。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①学校活性化推進協議会や学校運営協議会での協議を通し、家庭や地域との連携をいっそう密にし、生徒の成長に向けての協働を追求していきます。 ②家庭や地域への広報活動のいっそうの充実をはかります。 ③「オープンデー」「個別相談会」を新たに設定するなど、学校を見てもらう機会を積極的に設けます。	① 学校評価における「家庭や地域との連携を…」の項目における肯定的な評価が70%以上になる。 ② 学校評価における「家庭との連携」に係る項目における肯定的な評価が70%以上になる。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①学校運営協議会の3回実施と基調アンケートの実施。土岐市社協主催の「福祉学び塾」の本校開催と協力。地元中学校への出前講座 ②広報情報部の創設と広報活動の強化。 ③「オープンデー」3回実施、「個別相談会」の設定。土岐市立中学校と高校との合同研修会を本校で実施。	①地域との連携がなされ成果がみられたか。 ②広報活動により成果がみられたか。 ③オープンスクールの含めた学校紹介、学校見学に成果が見られたか。	(A) B C D A B (C) D A (B) C D
11 成果・課題	○土岐商工会議所と連携した企業説明会参加、土岐市社協との共催事業「福祉学び塾」実施、中学校への出前授業実施などで更なる地域連携がなされた。 学校運営協議会実施の基調アンケートにより、本校がどう見られているのか、またどうあって欲しいのか等がわかり、今後の学校運営の資料となった。 広報情報部を創設し、中学生を対象とした広報活動は昨年以上の実施に至った。 ▲学校が発信した情報が家庭に伝わっていない。ホームページに掲載するのみ、学年通信を生徒に配布するのみでは保護者には届かない実態がある。 広報情報部を創設し、中学校対象とした活動に重点を置いたが、家庭への広報活動に課題が残った。 「保護者の悩みや相談に適切に対応している」の否定的評価の増加については、教員の対応方法を再確認する必要がある。	
12 来年度に向けての改善方策案	地域の各機関に対しての連携は着実に深まりつつある。今年、設けた「総合的な探究の時間」特別委員会において地域との連携方法を検討し、可能な内容は新学習指導要領を待つことなく実施をする。 学校と家庭をつなぐものと「すぐメール」は十分に機能している。現在は、非常時の際等に利用しているが、それ以外の情報伝達のツールとしての利用についてか検討する。 保護者との対応については、相談しやすい関係を構築することがスタートである。それには教職員への信頼、真摯に向き合う姿が必要となる。職員のコンプライアンス向上のための研修を実施する。	
実施年月日：平成31年2月15日		
II 学校関係者評価		
【意見・要望・評価等】		
・生徒対象の評価と比べて、保護者対象の評価において、肯定的な回答割合が低く、「わからない」の割合が高くなっていることは、保護者に対する情報提供が十分機能していないことの現れである。改善策について、今年度新たに設置した広報情報部を中心に検討し、実施に移していく必要がある。		

I 自己評価

1 学校教育目標 (略 No1参照)

2 評価する領域・分野	◇学習指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	昨年度と比較し、項目15「習熟度別授業や少人数授業があり、それが学習の理解につながっている」の「わからない」が増え、肯定的評価が下がっている。習熟度別授業は行っていないが、授業中の個別指導の機会を増やす等、少人数授業の特色を生かしていきたい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学力とコミュニケーション能力の向上を目指した教育活動を推進します。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	(1)「学び方」や「学ぶ力」を身に付けさせるとともに、「学ぶ楽しさ」を感じさせることができるよう、「できなかったことができるようになった」場面をできる限り多く設ける等の授業改善に取り組む。 (2)コミュニケーション能力の向上を目指し、対話の場面を取り入れる等の授業改善に取り組む。 (3)地域の専門家と連携して実施する等の授業改善に取り組む。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①「できなかったことができるようになった」場面をできる限り多く設ける等の授業改善に取り組みます。 ②コミュニケーション能力の向上を目指し、対話の場面を取り入れる等の授業改善に取り組めます。 ③地域の専門家と連携して実施する等の授業改善に取り組めます。	①学校評価における「学習指導」に係る項目における肯定的な評価が70%以上になる。 ②「対話の場面を取り入れる」あるいは「地域の専門家と連携して実施する」等の工夫をした授業を、全ての教員が年に3回以上実施する。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①教材を共有化したり、教え方の工夫等を教科会で交流したりした。 ②学校支援課からの講師による研修会を開いたり、年2回の授業公開週間で他の教科の授業からもヒントを得たりして、授業改善を意識できた。 ③「産業社会と人間」や「保健」の授業等において、地域の専門家と連携した授業を実施した。	①わかる授業が実施されているか。 ②「主体的・対話的で深い学びの授業」が実施されているか。 ③地域の専門家と連携した授業が実施されているか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	総合評価 A (B) C D	
12 来年度に向けての改善方策案 教育課程講習会への参加者が来年度で本校教諭の過半数となり新学習指導要領の趣旨が浸透すること、また、電子黒板の導入により電子黒板を活用した授業をどう構築するかという研修を全職員で行い、各教科会でさらに研修を深めていくことで、授業改善の加速化をはかる。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月15日

【意見・要望・評価等】 ・「入学してよかった」が93%と極めて高いのは教科指導にも一生懸命取り組んでおられる成果だと思う。生徒のコミュニケーション能力の向上は重要なことであるが、そのみではなく、学習指導やその他の指導の場面において教員と生徒とのコミュニケーションがいつそう充実していくことを期待している。

I 自己評価

1 学校教育目標（略 No1参照）

2 評価する領域・分野	◇生徒指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒は安全で安心して学校生活を送ることができるような環境づくりを学校が行っていると概ね理解しているが、保護者にはそうした取り組みや意図が伝わっていないこともあった。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を目指した生徒指導を推進します。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	(1)明るくさわやかな挨拶、端正な服装、時間を守ることなど社会で求められる基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭や地域とも積極的に連携しながら、全ての職員で指導する。 (2)適切な生徒理解に努めるとともに、個別支援の視点を積極的に取り入れ、個々の状況に応じた指導を行う。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭や地域とも積極的に連携しながら、全ての職員で指導します。 ②適切な生徒理解に努めるとともに、個別支援の視点を積極的に取り入れ、個々の状況に応じた指導を行います。 ③様々な人権侵害行為（SNS等）やいじめの未然防止と危機回避及び危機管理能力を育てる指導を行います。 ④あらゆる機会において、自主性・積極性・協調性を養うとともに、規範意識を養い、公共心・道徳心を育てることを意識した指導を行います。	①学校評価における「生徒指導」に係る項目における肯定的な評価が70%以上になる。 ②左記の内容に係る研修会を年に2回以上実施する。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①月に1回の頻度で遅刻指導と身だしなみ確認を実施した。 ②定期的なスクールカウンセラーによる生徒の個別懇談、スペシャリストサポート事業（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー）による個別懇談、学習支援員による個別支援を積極的に実施し、職員とも対応を協議した。 ③全校集会時にはいじめを含め、安全・安心な学校生活に関する講話を実施した。 ④いじめ・教育相談に関する職員を対象とした研修をそれぞれ1回実施した。	①単発的な指導で終わらず、指導後に改善が見られる。 ②生徒への迷惑調査から挙げた事案に適切に対応できる。 ③学校評価における「生徒指導」に係る項目における肯定的な評価が70%以上になる。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○全職員できめ細かい指導が継続して行われた結果、生徒指導上の重大な事案や問題行動の発生も少なく、発生した事案については適切に対応することができた。 ▲学校評価における「生徒指導」に係る2つの質問項目において、30%程度の保護者が「わからない」と回答していること。	
12 来年度に向けての改善方策案 (1) 生徒指導上の事案が起きてからの対応ではなく、予防教育的な活動を組み入れる。 (2) 保護者とともに生徒を育てる視点を大切にして、連携をさらに深めるためにも情報発信を効果的に行う。 (3) 生徒が自己有用感を育めるような活動機会を増やす。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月15日

【意見・要望・評価等】

・本来肯定的な評価が100%にならないといけない「体罰の防止に努めている」や「いじめや差別を許さず、厳しく対応している」の設問において、肯定的評価が100%に達していないことについては、学校として重く受け止め、これを100%に近づけることができるよういっそうの努力が必要である。